

# ハダニ類に対する土着天敵を維持するリンゴの栽培体系(秋田県)

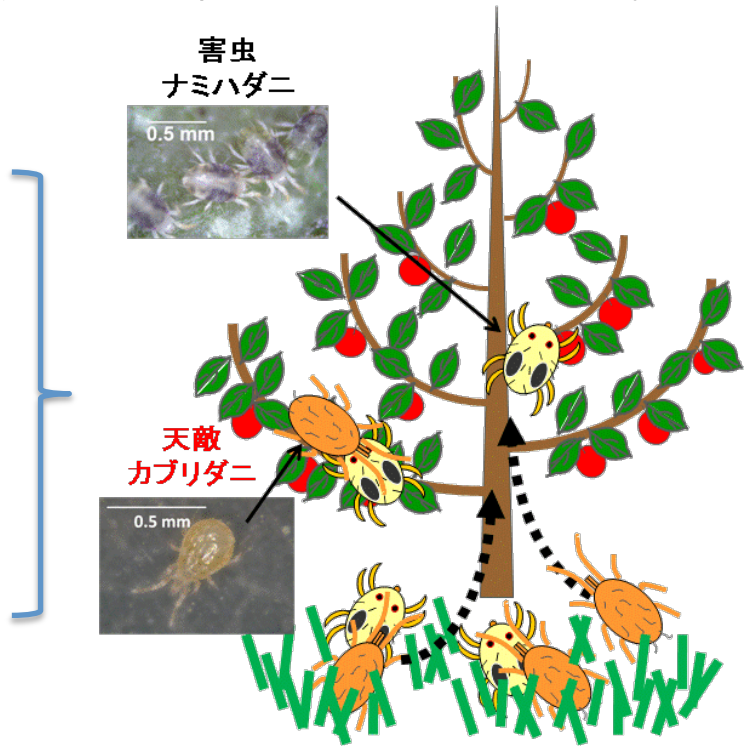
## 《環境にやさしい農薬散布と草生栽培で天敵を保護》

### ポイント

- 天敵のカブリダニ類に悪影響の強い農薬は散布しない。
- 天敵のカブリダニ類が棲んでいる下草はできるだけ刈り取らない。



+



カブリダニはハダニの主要な天敵です。リンゴ樹と下草に棲んでいるいろいろな種類のカブリダニを保護して生息数を増やせば、害虫のナミハダニは発生しにくくなります。

天敵にやさしい農薬の散布と草生栽培を続けた天敵保護管理圃場(右)は、天敵に悪影響の強い農薬の散布と機械除草を頻繁に行う慣行管理圃場(左)と比較して、天敵のカブリダニ類が春から秋まで続けて発生し、ナミハダニの発生が通年で抑制されます。

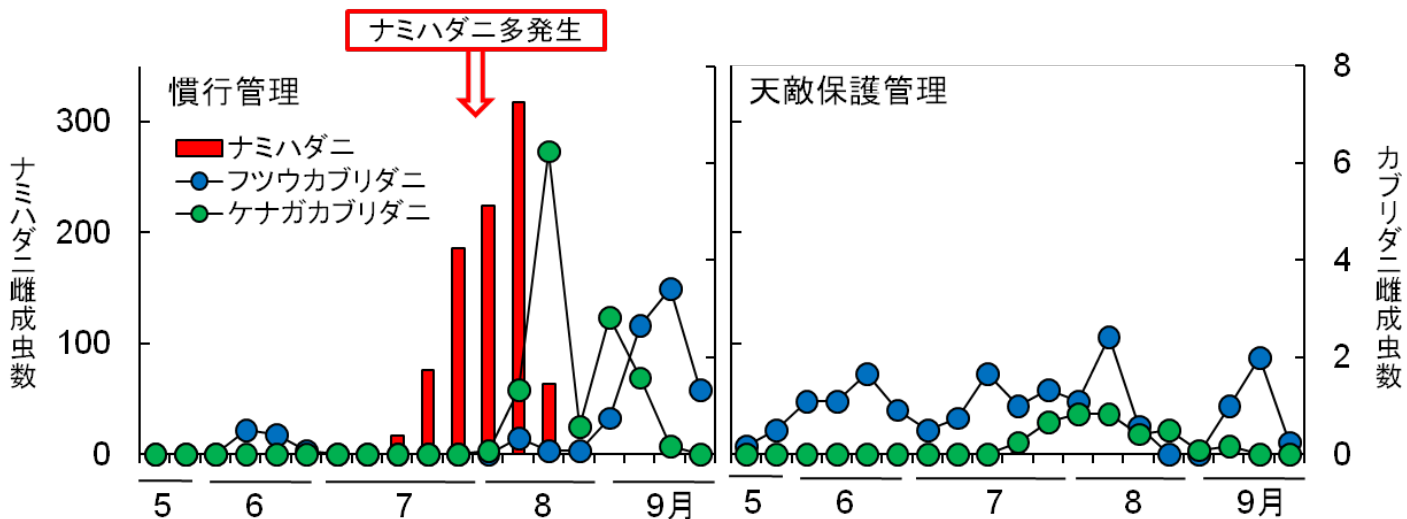


図-1 管理の異なるリンゴ圃場におけるカブリダニとナミハダニの発生消長  
天敵保護管理は継続4年目。数値は20葉当たり平均寄生数

表－1 土着カブリダニ類を保護した殺虫剤散布体系の一例

散布時期	薬剤名	対象害虫
芽出前	トモノールS	ナシマルカイガラムシ
開花直前	カスケード乳剤	ハマキムシ類, ケムシ類
落花直後	カスケード乳剤	ハマキムシ類, ケムシ類
落花25日後	デミリン水和剤	キンモンホソガ, モモシンクイガ
6月下旬	デミリン水和剤 アプロードフロアブル	モモシンクイガ, キンモンホソガ ナシマルカイガラムシ
7月上旬	デミリン水和剤	モモシンクイガ, キンモンホソガ
7月下旬	ノーモルト乳剤	モモシンクイガ, キンモンホソガ
8月上旬	ノーモルト乳剤	モモシンクイガ, キンモンホソガ

※注意1：カメムシ類やコガネムシ類が多い場合は殺虫剤をネオニコチノイド剤（モスピラン顆粒水溶剤やバリアード顆粒水和剤など）に替えて散布する

※注意2：ナシマルカイガラムシが多い場合は7月上旬にもアプロードフロアブルを散布する

※注意3：アブラムシが多い場合はウララDFを散布する



## 下草の管理

無除草によって、丈の高い下草の繁茂が心配される場合は、4月（雪解け後）に市販のシロクローバー種子を散布器などで播種し、他の下草を抑草する方法もあります。シロクローバーはリンゴ園で広く観察され、多年生で草丈が低く、耐寒性や耐踏圧性に優れます。その後、生育旺盛な下草が見られる場合は、適宜、抜き取るか、除草剤をスポット処理します。

## 実践農家の声（4年間の実践を終えて）

・ナミハダニは最初の年と2年目は増えてリンゴ葉が少し褐変したが、ダニ剤を散布しないで我慢し続けたところ、3年目と4年目には問題ないほどに少なくなって驚いた。この栽培体系は続けて行うことが重要だと思う。

・カブリダニが増えるとナミハダニが急激に減ることがわかった。ダニ剤散布回数の削減には、ハダニが発生してもすぐにダニ剤を散布せず少し我慢し、カブリダニの発生をよく確認してから行うことがポイントになると思う。

・ダニ剤の散布は1年間に2～3回行っているが、この栽培体系を行った4年間は1年間に1回で済んだ。以前よりもカブリダニとハダニの発生状況を把握できるようになり、ダニ剤の効果的な使い方に自信を持てるようになった。